
日本図書館協会 第40回 図書館建築賞 (資料)

〔講評〕

受賞館：石川県立図書館（石川県）

石川県立図書館は、県民の文化的な活動・交流の舞台として、知的な活気や賑わいに溢れる図書館にするという基本コンセプトを、圧倒されるほどの魅力ある場として具現化している。地域ごとに模索が続く県立図書館の在り方として、一つの方向性を示す高度なモデルが誕生したといえる。

建築の構成は、四角い整形空間の中に、楕円・すり鉢形状のグレートホールと呼ばれる中心空間を組み込んだ「入れ子構造」に特徴がある。そのグレートホールは、2つの円形劇場を向かい合わせつつ高さを変化させたような段状の断面をしており、段の上方を円形閲覧空間に、下にできる空間を主に交流目的の場に活用している。

このような特殊な空間を図書館として成り立たせ、かつこの空間ならではの魅力を引き出すために、設計当初から繰り返し行われたハード・ソフト両面からの試行錯誤が、成果として結実している。円形閲覧空間ではなじみやすく身近な12のテーマを設定し、約7万冊が表紙を多くみせて訪れる人々を魅了している。その外側スペースに、約23万冊をNDC分類別に、知を深める場として配しており、4階の回廊式の開架も含めて、楽しく巡れる閲覧エリアを実現している。地球環境に配慮した建築設備、自然災害に備えた免震構造など、技術面でも工夫が凝らされている。

また、主催共催イベントや1,2階の貸しスペースの利用も多く、他組織との共催も実施している。特に、隣接する金沢美術工芸大学との連携は、イベントに加え、ものづくり体験スペースの運営協力等にも及んでおり、県内伝統工芸振興の新たな場としても注目したい。



▲本のページをめくるような帳壁の連なるユニークな外観は、四角いシルエットゆえに堅い印象を持つが、それに相反し、内部空間にはこれまでの図書館にない動的な柔らかさがある。その空間体験は、四角い姿の本を読み進めるうちに、柔らかなストーリーの世界に引き込まれていくようでもある。

(石川県立図書館)

